

提案団体名： 日建設計総合研究所、つくばウエルネスリサーチ

○提案内容 ICTプラットフォームと連動した「健幸まちづくり」型のスマート・プランニング

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙3の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください	
技術の概要・実績等	技術の分野
<p>当団体を構成する日建設計総合研究所、つくばウエルネスリサーチでは、これまでにそれぞれ交通分野をはじめとする都市計画・政策、「健幸まちづくり」(※1)推進のための実績を有しています。また、昨年度は共同でスマートシティ推進のための実証調査にも取り組んでおり、これまでの知見を基に、「健幸まちづくり」実現のための「スマート・プランニング」手法の構築・発展に関する以下の技術を提案します。</p> <p>※「健幸まちづくり」→超少子高齢化社会に対応する「コンパクトプラスネットワーク」を基とする概念</p> <p>①「健幸ポイント」システムによる歩行の促進(右記分野(2)、(4)に該当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・独自のノウハウによる、歩行を促すためのポイントシステム(歩数、健康状態の改善に応じたインセンティブの付与) ・上記システムにより歩行習慣(健康的なライフスタイル)の形成に寄与 <p>歩数や健康状況の改善度合いに応じて人々にインセンティブを付与する「健幸ポイント」システムにより人々の歩行が促進されます。また、これにより、人々の健康意識の向上や健康的なライフスタイルの形成に寄与します。</p> <p>②ICTプラットフォーム上の異種の分野のデータを用いた移動予測手法(右記分野(2)、(4)、(5)に該当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通、健康・医療、地域経済等の異種の分野のデータ(人流データ、歩数データ、健康データ、年齢・性別データ等)を用いた、移動(回遊・対流行動)予測手法を構築 ・異種のデータを蓄積するICTプラットフォームと連動した予測・分析手法の検討 ・人流データを用いた回遊・滞留行動の可視化、および当該行動と施設空間の関係の検証 <p>交通分野と健康分野をはじめとした異種の分野のデータを用いながら、施設整備やサービス提供が人々の移動に与える影響や地域活性化・健康等に与える効果について予測・分析する手法を構築します。また、その予測・分析結果をプラットフォーム等を通して社会的に共有するための手法について検討します。</p> <p>③健康まちづくりに対応したエアリアマネジメント手法(右記分野(7)に該当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の技術と施設計画・運営を組み合わせたエアリアマネジメント手法 <p>回遊や滞留を促す街路空間、公開空地のデザインなどの施設計画・運営の手法構築を行います。</p> <p>【関連実績】</p> <p>「ICTを活用した官民連携の健幸まちづくり推進プロジェクト」 (国土交通省スマートシティ実証調査としてスマートウエルネスシティ協議会(日建設計総合研究所・つくばウエルネスリサーチ・札幌市)により実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ●期間:平成30年度 ●実施場所:札幌都心部の地下空間(地下鉄さっぽろ駅～すすきの駅間) ●事業概要:「健幸まちづくり」の推進と、「歩きたくない」まちづくり推進のため参加者約200名を対象にした「健幸ポイント」実験と、「スマート・プランニング」のための検証を実施(参加者の歩数・移動データと、個人属性データ・屋外気象関連データ・地下空間関連データ等の関係について検証) 	<p>(2)分析・予測技術</p> <p>(4)データプラットフォーム</p> <p>(5)データの活用(可視化技術等)</p> <p>(7)その他</p>
<p>(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください</p>	
解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>上記の技術は、交通、防災、地域活性化、健康等の様々な分野に展開できるものと考えられます。具体的には以下のものが挙げられます。</p> <p>A. リアルタイムな人流データを活用したスマート・プランニングにより「健幸まちづくり」に向けた課題を抽出。施設配置・空間形成、交通網整備、賑わい演出等、ソフト・ハード合わせたパッケージ型施策立案支援を実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩いてみたくなる施設配置、賑わいのある公共空間や街並みの形成(右記課題(オ)に該当) ・適切な歩行動線の形成、バス停や駐車場の配置、回遊交通の導入(右記課題(ア)に該当) ・防災時の人々の避難行動の予測と、スムーズな避難誘導のための、空間・サービス構築(右記課題(イ)に該当) <p>B. 少子高齢化社会における健康長寿延伸の実現(右記課題(カ)に該当)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記技術①および③により、健康を維持するための歩行習慣の形成やソーシャル・キャピタルの醸成に寄与 ・都市・地域居住者の健康寿命延伸や、医療費に関する課題解決 	<p>(ア)交通・モビリティ</p> <p>(イ)防災</p> <p>(オ)観光・地域活性化</p> <p>(カ)健康・医療</p>



関連実績における人流データの可視化

(3) その他

■実施中のプロジェクトの今後の展望

- ・上述の関連実績(「ICTを活用した官民連携の健幸まちづくり推進プロジェクト」)において、対象地域を都心部地下空間だけでなく、地上部、郊外まで拡張
- ・スマート・プランニング検証の対象分野の拡充(健康・地域活性化・防災・交通等の多種の分野のデータを用いた検証を推進)

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
日建設計総合研究所 都市開発・計画部門	吉本 憲生	03-5259-6080	yoshimoto.norio@nikken.jp